



日うた祭典向け、長崎のうたごえ演奏交流会 合唱発表会に7団体が推薦されました 「ながせん」「花の輪」「一本のペンで」「樹」など

長崎のうたごえ協議会が主催する「2010年長崎のうたごえ演奏交流会」は5日、長与町民文化ホールで開かれました。今年、日本のうたごえ祭典 in 長崎の開催県として、合唱諸団体に積極的参加をよびかけ、過去最高の18団体が参加。終日熱唱が続きました。その結果、10月の「日本のうたごえ祭典 in 長崎」の合唱発表会（日本のうたごえ全国協議会主催）に出演する機会が

与えられる合唱団・サークルとして、「合唱団ながせん」、「新婦人コーラス花の輪」、「一本のペンで合唱団」「母さんコーラス樹」の4団体が推薦されました。

**長崎祭典をつくる人！
応援する人！支える人！**

加えて、小編成の部に「月夜の小径のクローバーズ」、交流の部に「親子で山登りキンピラ班」、オリジナルの部に「We love こうぼる」が、それぞれ推薦されました。

「平和の旅へ」(大音楽会)で ピアノ/伴奏を担当する 村川 千佳さん



私が叔母によく似ていたらしくて、幼少のころ

祭典最後の、「平和の旅へ」の大合唱でピアノ伴奏を担当させていただきます。長崎で初めての「日本のうたごえ祭典」ですから、「うたごえ」という音楽に初めてふれる方にも、全国から来てくださったみなさんにも、「心に残る演奏だった」と思ってもらえるように、全力で臨みたいと思います。

「心に残る演奏だった」と思ってもらえるように



演奏交流会で披露された「稔りの御神楽」

うたごえ新聞が300部を突破

日うた長崎祭典成功への取り組みの広がりを示すバロメーターの1つでもある「うたごえ新聞」が、祭典までの目標である300部を突破し、6日には306部となりました。

宮崎実うたごえ新聞部長の話

長崎のうたごえ協議会全会員の団結力と、祭典の成功を願っておられるみなさんのご協力によって達成できたことです。みんなで喜びあいたいと思います。祭典成功に期待をよせてくださるすべての人たちと力をあわせてがんばりぬき、必ず2つの会場を満杯にして祭典を迎えましょう。

私は、「千佳ちゃんは今生まれ変わらね」とよく言われました。渡辺千恵子さんの半生を歌った「平和の旅へ」に出会ってもう10年になりますが、私はこのなかで自分の居場所をもらったような気がしているんです。自らの音楽人生に、力強さとあたたかさ、しなやかさを身につけていただきたいと思います。

私たちは音楽で自らの思いを伝えるのですから、うたごえが持っている思いの強さをより豊かに伝えられるように、これからもお互いに努力したいですね。人の心を動かすような絵を描くには、大きな筆だけでは描けませんから。

そうすることで、うたごえはもっともっと大きく前進できると思います。今回の祭典をその跳躍台にしたいですね。

(音楽家・長崎市在住)

長崎祭典の見どころを語って チケット普及に全力を

♪開幕まで
あと**39**日

遅れているアリーナ大音楽会（10月16日・全自由席）のチケット普及も少しずつ前進してきました。「5人に3枚ずつ預かってもらった」「6人に手紙を書いて2枚ずつ協力してもらった」などと、広がり始め、「連絡したら2枚分広げてもらっていた」「3人に売ってくれていた」といった報告も寄せられています。運営委員会では、9月を「チケット普及特別月間」として、最優先でチケット普及タイムをつくって、必ず目標まで励ましあってがんばりぬこうと確認しました。

長崎祭典の見どころや魅力、特徴などを自分なりに大いに語って、経験を広げましょう。

長崎祭典の見どころや魅力、特徴などを自分なりに大いに語って、経験を広げましょう。

9月の鉄橋での街頭宣伝

祭典も目前です。前回の鉄橋でのパフォーマンスの経験を生かし、11日（土）と24日（金）の午後4時から行います。多くの参加で楽しく宣伝しましょう。



岳童太鼓と一緒に宣伝した8月26日の様子です

9月は「チケット普及特別月間」です

長崎祭典の見どころ（大音楽会）

- ① 地元の合唱団と全国のうたごえ合唱団が、一つの舞台で大合唱
全日本合唱連盟理事長・浅井敬壹氏指揮
♪赤い支那靴 ♪君よ目を凝らしたまえ
♪大地讃頌
- ② 被爆65年、ナガサキの想いをつなぐ
「平和の旅へ」 最終章は1000人の大合唱
- ③ ゲスト ナターシャ・グジーさんと被爆地の子どもたちのコラボ
♪あの子 ♪ねがい
- ④ 全国の階層別のうたごえ
あなたの共感をさそうことでしょう
- ⑤ 長崎の歌とおどりの共演
・和太鼓30台の共演 ・龍おどり
・稔りの御神楽
- ⑥ 「一本のペンで」の全員合唱・

働く人たちの底抜けの明るさ 「樺島ハイヤ節」



「樺島ハイヤ節」の演奏

全国に広がるハイヤ節。そのルーツに定説はありません。熊本県の牛深だ、鹿児島県の阿久根だ！などと、「本家」争いもにぎやかです。長崎県では、平戸の田助港が発祥の地とか。「潮待ち」「風待ち」の船乗りが、田助の宴席でハイヤ節をおぼえ、北や南に歌い伝えて根付かせたというのが始まりといわれます。長崎半島の最先端に位置する「樺島」は豊かな漁場に恵まれ、昔からイワシ漁でにぎわってきました。多くの漁船が参集し、「風待ち」「潮待ち」の港として栄えました。そこで、田助港から運ばれたハイヤ節が根をおろし、樺島らしい独特の歌詞が付いて、「樺島ハイヤ節」になります。今日に伝わったとされています。

♪出船可愛や 入船よりも、
またと会うやら サーサ会わぬやら

豊漁に感謝し、漁にでた夫の帰りを待つ、浜の女性と、海の男たちの心意気を、「樺島ハイヤ節」保存会のみなさんが、底抜けに明るく、しかもお色気たっぷりな歌い上げます。

10月15日
ブリックホール

「グレート・ジャーニー」3部作
池辺晋一郎先生の練習会です

9月10日（金・6時半）・ブリックホール2階